

# 炎症性腸疾患に対する新薬の特集

## 第3弾 リンヴォック®錠

### —潰瘍性大腸炎—

#### 特徴



リンヴォック®錠（ウパダシチニブ）は過去の治療において少なくとも1つの既存治療薬（ステロイド、免疫調節薬等）で効果不十分であった中等症から重症の潰瘍性大腸炎の寛解導入及び維持療法に使用するヤヌスキナーゼ（JAK）阻害薬です。

作用機序は第2弾で取り上げたジセラカ®錠（フィルゴチニブ）と同様であり、体内の液性因子であるサイトカインの働きで炎症を誘発する信号を細胞内に伝え、炎症を引き起こすJAKを阻害します。

関節リウマチ、関節症性乾癬、強直性脊椎炎、アトピー性皮膚炎に適応があり、2022年9月に潰瘍性大腸炎に適応が追加されました。さらに、既存治療で効果不十分なX線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎に対しても2023年2月に追加承認されました。

#### 使用法と注意点

寛解導入療法では、45mgを1日1回8週間内服します。効果不十分な場合はさらに8週間追加して内服することができます。導入療法の開始後16週時点で治療反応が得られない場合は、他の治療への切り替えを考慮します。

寛解維持療法では15mg（もしくは30mg）を1日1回内服します。

イトラコナゾール、リトナビル、クラリスロマイシン等と併用する場合は代謝が強く阻害されるため、導入療法では30mgに減量、維持療法では15mgとなります。また、高度の腎機能障害のある方も血中濃度が上昇するため、同様の対応となります。

免疫抑制作用が増強されると感染症のリスクが増加することが予想されるため、生物学的製剤、他の経口JAK阻害剤（トファシチニブ、フィルゴチニブ）、免疫抑制剤（タクロリムス、シクロスポリン）、免疫調節剤（アザチオプリン等）との併用はできません。動物実験にて催奇形性（児に影響を与え、形態的な異常を生じさせる性質）が認められたため、リンヴォック®錠服用中の女性は妊娠を避ける必要があります。服用中と服用終了後少なくとも1月経周期（次の生理）までは適切な避妊を行ってください。また、服用中の授乳も控えてください。

副作用として、免疫の働きが低下し、带状疱疹などの感染症になりやすくなる場合があります。発熱・咳や、皮膚の違和感や痛み、皮疹などが出現した場合は速やかに医師に報告してください。

血液検査で異常が出ることもあり、リンヴォック®錠内服中は定期的に血液検査を行い、好中球・リンパ球・ヘモグロビン値、腎機能・肝機能などの異常がないことを確認していきます。次回は、スキリージ®について紹介させていただきます。

(文責：薬剤師 南有里)



北里大学北里研究所病院  
Kitasato University Kitasato Institute Hospital